

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 萌葱の郷 ライフサポートセンターなごみ園		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 20日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども一人ひとりの特性や発達状況を丁寧に理解すること、また保護者の思いやニーズを大切に受け止めることを基本に、客観的な視点を踏まえて保育所等訪問支援計画(個別支援計画)を作成している点は、当事業所の大切にしている強みの一つであると考えております。	こども一人ひとりの特性や発達状況を丁寧に把握し、それぞれに応じた専門性のある支援が提供できるよう、日々のアセスメントや職員間での情報共有を大切にしながら取り組んでおります。 支援にあたっては、児童発達支援管理責任者を中心に、保育士や児童指導員、心理担当職員などの専門職が連携し、多角的な視点から支援内容を検討しています。また、支援開始前や振り返りの時間を設けることで、子どもの様子や変化を共有し、より適切な関わりにつなげられるよう努めています。さらに、こどもが安心して関わられるよう、信頼関係の構築を何よりも大切に、こどもに慕われ、安心や喜びにつながる職員が訪問できる体制づくりを意識しています。	今後も専門職による訪問支援の質の向上を図りながら、継続的な支援に努めてまいります。
2	共感的な支援が行えるよう日々心掛けていることも、当事業所が大切にしている点の一つです。	こどもやご家族の思いに丁寧に耳を傾け、その背景や気持ちを受け止めながら関わることを意識しています。一人ひとりの立場に立って考える姿勢を積み重ねていくことが、安心感や信頼関係につながっているのではないかと感じております。	「添えていたか」「別の見方はなかったか」と多角的に検討することで、思い込みにとらわれない支援を心掛けます。また、こどもやご家族からの言葉を丁寧に受け止め、小さな変化やサインにも気づける感性を養うよう努めてまいります。 さらに、研修等を通して専門的な知見を学び続けることで、感覚的な共感にとどまらず、根拠に基づいた理解へと深めていけるよう取り組んでまいります。
3	こどもやご家族、訪問先の職員の皆さまとの信頼関係を何よりも大切に、「顔の見える関係づくり」を心掛けながら支援を行っていることは、当事業所の特徴の一つです。日々の丁寧なやり取りを積み重ねることで、安心して相談し合える関係性づくりに努めています。	・こどもやご家族、訪問先の職員の皆さまと信頼関係を築くことを何よりも大切に、日頃から「顔の見える関係づくり」を意識しています。日常的なあいさつや丁寧なやり取りを積み重ねることで、安心して相談し合える関係性の構築に努めています。 ・訪問先からのフィードバックについては積極的に受け止め、改善点があれば速やかに支援内容へ反映できるよう心掛けています。こどもの状況や支援方法に対するご意見を大切に、多角的な視点で捉え直すことで、より実態に即した支援につなげています。 ・訪問支援の目的やプログラムの内容については、専門的な視点を踏まえながらも、分かりやすく丁寧に説明することを心掛けています。児童発達支援管理責任者や各専門職の知見を活かし、多角的・専門的な目線で検討した内容を共有することで、訪問先と共通理解を図りながら連携した支援を大切にしています。	一方の情報提供にとどまらず、定期的に振り返りや意見交換の機会を設けるなど、双方向の対話をより大切にすることが必要であると考えております。また、小さな相談や気づきも共有しやすい雰囲気づくりを意識し、迅速かつ丁寧な対応を積み重ねていくことも重要です。 加えて、職員一人ひとりがコミュニケーション力を高めるための学びを継続し、相手の立場に立った伝え方や受け止め方を磨いていくことで、より深い信頼関係の構築につなげてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族向けの研修会、情報提供の機会については、現時点では十分に実施できていない状況です。今後は、ご家族のニーズを丁寧に把握しながら、取り組みの充実について検討していく必要があると考えております。	・研修会などの実施、案内、定期的な情報提供が行われていない、もしくは情報の伝達方法が不十分な場合が考えられます。	・情報提供については、これまで以上に充実させていきます。対面以外にも電話やアプリなど複数の手段を使って、家族に有益な情報を定期的に提供し、家族が支援内容や活動状況について常に把握できるように工夫します。
2	緊急時の対応について、訪問先施設と連携しながら実践する体制は整えているものの、具体的な連携訓練や実践の機会は十分とはいえない状況です。今後は、より実効性のある連携体制づくりに取り組んでいく必要があると考えております。	現在の訓練は主に事業所内での実施が中心となっており、想定外の事態や多様な状況を十分に想定した訓練としては、まだ万全とはいえない部分があるのではないかと考えております。 近年、災害への不安も高まっていることから、より実践的で幅広い場面を想定した訓練の充実が今後の課題であると感じております。	こどもや保護者、職員が緊急時に速やかに必要な情報を受け取ることができるよう、メールやアプリなどの迅速な情報伝達ツールを活用してまいります。 また、事業所と訪問先施設との連絡体制についても改めて確認し、緊急時においても確実かつ迅速に情報が共有できる体制を整えてまいります。
3	支援内容の周知や説明について、具体性の面で十分とはいえない部分があると感じております。	訪問支援の報告は実施しているが、具体的な支援内容や環境面の説明が十分でなかったことが、「わからない」という回答につながった可能性があると考えております。	今後は、支援内容や使用している教材、環境面での工夫などについても、より具体的に分かりやすくお伝えできるよう工夫してまいります。報告の際には資料等も活用しながら、取り組みがより見える形となるよう努めていきたいと考えております。